

令和元年6月6日

瀬戸市議会議長 殿

住所

氏名

加藤 久隆

連絡先

水野駅周辺1km圏内への買物支援バス設置に関する陳情書

## 1. 陳情の趣旨

下記のとおり当該地区へのマイクロバスによる陶生病院がとへの循環路線の必要性を訴えるもの、一向に前道はたまためせぬ高齢者が買物に出かけやすいように要望するものです。

「住みやすいまち」に沿って施策を実行すべき。

## (1) 現在の状況

① 水野駅前にあったスーパーマーケットが数年前に閉店し、現在は周辺にドラッグストア2店舗とコンビニがあるものの、生鮮食品についてはほとんど取扱いがないため、週10回は新瀬戸駅にあるスーパーマーケットまで出かける必要に迫られている現状。

② 水野駅を高齢者が利用するには2つの障がいがあること。

① エレベーターの設置がなく、杖を杖つたり、手押し車利用する高齢者の利用は不可能。

② 水野駅に至る駅の横を南北に走る道路には歩行者用のスペースが全くなく、折々には車が走っていき、他の家の自動車スペースに避難しなくては車に接触しかねない現状があり、杖をついたり、手押し車を押しこめて歩行が困難。しかも駅の北側などは狭い歩道があるものの、駅と反対側にはあり、駅への横断が困難。

新瀬戸駅や尾張瀬戸駅周辺の幅広歩道とは全然環境が異なる。

普段車で生活している人にはわからず、担当部署の市職員や検討委員のメンバーに実際に歩いてもらうと体感してもらうとよく理解できると思う。

## (2) 陳情による経緯

① 水戸駅周辺と新瀬戸駅、陶生病院を循環する25人乗り程度のマイクロバスによる一時間一本程度の路線の必要性を市の担当部署に訴えるも前進がなく、市議会に陳情するも市の発令議論され、「はす」の理由で「内前払」の状況、本来4人乗機能を実現するべき市議会でも発令機能していない。

② 「瀬戸市地域公共交通会議市評委員」へ応募するも不選出。従来の私の主張が都合が悪いものであるためXメンバーの選考から外れてしまっている。

私の意は以下のとおり。

③ 会議での検討資料とほろ交通不便地区か否かの分析資料に大きな誤りがあり、その結果、路線が必要な地区にミニバスが走り、不必要な地区にバスが走る結果となっている。

例としては「西山町」などはすぐ近くに尾張旭市のミニバスが走り、以下の地区に1時間一本の间隔で利用できるにもかかわらず不都合な地区に発令されている。

- スーパーストア — バローの3店舗、アパネショップ、イトヨーカドー、ヤマキ、アスカ。
- 乗り次ぎ — 三郷駅、尾張旭駅
- 病院 — 愛知医科大学
- その他 — 森林公園

以上のように乗り換えて利用できると瀬戸市内で断トツに高層階にと、便利な地区であるにもかかわらず、不便な地区であるXメンバーに認識され、こうは路線の路線に組み入れ

「イオン」、「バロー新瀬戸店」、「ナフコ」、「陶生病院」、「サクラエビル」などが利用できる、他地区から見ると非常に便利な地区と見られている。

一方で山手町や長楽通り付近などは実質的に何れも交通機関が利用できない現状となっている。

高層階とが歩行者スペースの有無などが勘案されている、不便な場所である。

④ 路線の採算性を問題にする意見をよく聞か、目標は「採算性」を「いかに大きく改善させるか、市民の利便性の向上に努めること」を掲げたい。

「採算性」よりも 市民の利便性の向上が人口の増加につながり、穂刈のアップにつながるといった費用対効果を確認が必要。

⑦ 名鉄バス(中水町公園)の路線変更

上記のように私の主張が継承されてきたことは180度違う点から排除されたものと思われる。

またまた中水町の栗山郵便植物園の再生プランのうち「海洋ゾーン」建設計画に反対し、現状前に進まなくなつたことは、植物園の紅葉の有効活用を提案し、再生プランが大きく変わったことは、Xバーに選ばれたことが原因と思われる。

2. 陳情事項

(1) 水野駅周辺1km圏への買い物支援バスの設置

駅横を南北に走る道の延長線上にある山手町や共栄通りは設置の必要性が高い。

週に2、3往復程度であれば、それ程の予算は必要ないのではないか。